Course Syllabus & Schedule

グローバル社会・大学・地域

Global Society, University, and Local Society

放送大学　Spring 2019

Dr. Naomi Tsunematsu　恒松直美

シラバス [Course Outline]

担当教官（Lecturer）:　恒松直美　（Dr. Naomi Tsunematsu）
所属：　広島大学国際センター国際教育部門
研究室（Office）: 教育学部K302（Education K302）
TEL: 082 424 6279　Email: ntsunema@hiroshima-u.ac.jp
日程　(Class Schedule):　4月16日（火）＆4月26日（金）　(9:50-17:10)
会場: 広島学習センター　（福山サテライトスペース）
単位数：　1

授業スケジュール　Schedule of the Course

第１回　コース・オリエンテーション：　グローバル社会と日本
Course Orientation: Global Society and Japan
第２回　グローバル社会と大学１　：　大学国際化と留学生政策
Global Society and University No.1: Internationalization of University and Policies for International Students
第３回　グローバル社会と大学２：　比較国際教育学の視点から
Global Society and University No.2: Perspective of Comparative Education
第４回　異文化コミュニケーション１　＜課題提示＞ Cross-cultural Communication 1
第５回　異文化コミュニケーション２　Cross-cultural Communication 2
第６回　多文化共生の地域づくり１　：　理論と実践紹介
Multiculturalism and Local Society No.1: Theories and Actual Cases
第７回　多文化共生の地域づくり２：　実践的課題とプラン
Multiculturalism and Local Society No.2: Practical Issues and Planning
第８回　プレゼンテーション・総括・試験
Presentation and Summary / Exam

授業内容　（Course Content）

グローバル社会におかれた大学の変革と国際化の課題や地域社会と協力した多文化共生のための教育のあり方について皆様と共に考えます。今、大学は国際競争力を向上させ国際化を推進する制度改革を進め、地域では多文化共生のまちづくりが提唱されています。本講義では、地域振興をもたらす留学生の国際的体験学習も紹介しつつ、グローバル社会における多文化共生の課題や大学の国際教育と地域社会との連携による施策について考察します。

授業構成（Course Structure）

授業は主に**講義及びディスカッション形式**とし、**講義、グループ・ディスカッション、グループ・プロジェクト、最終考察レポート（個人）**から構成される。

全体評価

全８回の授業終了後、学生の成績を評価します。面接授業の成績評価はA+,A,B,C,D,Eの6段階にて行い、A+,A,B,Cを合格とし、学生に1単位が付与されます。**A.「出席状況」とB.「学習状況」の2点から評価します。**「出席状況」に関しては、面接授業は、原則として8回すべての授業への出席が求められます。

評価項目（Assessment）

	Weighting
A．出席[Attendance in lectures]	**原則8**

回出席

Ｂ．学習 [Academic Performance]

(1)グループ実践プロジェクト概要 [Group Project Proposal]
10%

(2) グループ実践プロジェクト・プレゼンテーション [Group Project Presentation] 15 %

(3) グループ・ディスカッション＆フィードバック [Discussion＆Feedback]
15%

(4) グループ実践プロジェクト提案に関する考察レポート（個人） [Final Paper]
60%

TOTAL 100%

(1) グループ実践プロジェクト概要 （Group Project Proposal）

- **「外国人と地域の人々との異文化理解を促進するための施策」**に関するグループ・プロジェクト提案を行う（企画提案のみで実践は行わない）。グループ（４～５人）を構成する。
- 紙媒体で配布された「プロジェクト概要（実践企画テーマ＆役割分担）」をグループで記入し、提出する（第1日目の授業後）。
- 限られた時間にグループで話し合い、決定する経験を持つ。
- 第2日目の授業までに、グループ内で相談して 内容を変更しても構わない。
- グループ構成は教員より発表する。

(2) グループ実践プロジェクト・プレゼンテーション（Group Project Presentation）

- 第2日目の授業で、グループ実践プロジェクトについて各グループごとに議論してまとめ、プレゼンテーションする。プレゼンテーションの準備に1時限使用する。
- 模造紙、マーカー、カードなどを教員が準備する。
- 発表時間約３分、質疑応答約２分、とする。発表では全員前にでること。
- 他グループの発表についてフィードバックを行うこと。

研究プレゼンテーションは下記の項目に従って評価する。
Research Presentation will be assessed according to the following criteria:

Criterion

(1) 話題と概要の明確な提示[Clear presentation of topic and outline] A～E
(2) 研究題目のテーマへの関連・貢献 A～E
[Topic's relevance for the theme] A～E
(3) 重要問題の明示 [Identification of important issues] A～E
(4) 分析 [Analysis of the issues] A～E
TOTAL **A～E**

(4) グループ実践プロジェクト提案に関する考察レポート[個人] （Research Report）

論文についての重要事項 [Important points about your research paper]

- これは**個人のレポート**である。
- **グループでまとめたグループ実践プロジェクト提案及びプレゼンテーションについて、自身の考察をまとめる。**
- **授業時間内に紙媒体で提出する。授業にて紙媒体を全員に配布する。**

考察レポートは下記の評価基準に基づいて評価する。
The research paper will be assessed according to the following criteria:

Criterion **Weighting**

(1) 研究題目の重要性 [Explanation of the topic's significance]
(2) 明確な構成 [Clear structure and organization]
(3) 議論と分析 [Argumentation and analysis]

(4) 執筆者の「主体」[Writer as 'Subject' (not mere copy of others' works)]
(5) 論文執筆における表現 [Appropriateness of expressions for academic writing]
TOTAL A～E

＜参考文献　Selected Readings＞
＊一部配布いたします。授業の理解に役立つ文献をリストしてあります。

- 西山教行・平畑奈美　編著『「グローバル人材」再考 – 言語と教育から日本の国際化を考える』　くろしお出版, 2014. 當作靖彦　第１章「グローバル人材育成のために – 社会と教育の果たすべき責任とは」, pp.20-47.
- 横田雅弘・小林明編　『大学の国際化と日本人学生の国際志向性』 学文社, 2013. 序章「外国人留学生の受け入れと日本人学生の国際志向性 – 本書の問題意識とその背景 -」, pp.1-10 / 第１章「日本の学生国際交流政策 – 戦略的留学生リクルートとグローバル人材育成 -」, pp.13-38.
- 石井敏・久米昭元・遠山淳・平井一弘・松本茂・御堂岡潔　編　『異文化コミュニケーション・ハンドブック －基礎知識から応用・実践まで-』 有斐閣選書, 1997.　第II部　第16章「日本人のコミュニケーション特性」, pp.111-115./第II部　第１７章「日本社会の特徴と異文化コミュニケーション」, pp.116-119./第ＩＩ部　第１８章「多文化社会としての日本」, pp.120-124.
- 恒松直美 『地域社会と連携した「学生主導型」交換留学生インターンシップの挑戦 – 地域再生への貢献と留学生のエンパワーメント』, Challenge of ‘Student-centered’ Internship for International Exchange Students in Cooperation with Local Society: Contribution to the Revitalization of Local Society and Empowerment of International Students.’ ウェブマガジン『留学交流』, 2014年8月号, Vol.41 (独立行政法人日本学生支援機構).
- 塩原良和　『多文化社会における「つながり」の重要性と自治体政策の役割』 シリーズ　多言語・多文化協働実践研究　12 【鶴見チーム】09-10年度活動 論考『地域における越境的な「つながり」の創出に向けて－横浜市鶴見区にみる多文化共生の現状と課題－』, 2011, pp.11-20.
- 日本学生支援機構 JASSO　ウェブマガジン「留学交流」

https://www.jasso.go.jp/ryugaku/related/kouryu/index.htm

＊特集　多文化共生社会で生きる （2018年7月号）
＊特集　地域活性化と外国人留学生 (2018年9月)